



# 温かい心で寄り添って

〈埼玉県〉

中田 真由美 なかだ まゆみ 53歳

「あれ？ 変だな、足に力が入らないよ、ママ」

そう言ったかと思うと、ヘナヘナと私にもたれかかってしまった娘。娘をよく見ると左手足がしびれて力が入らない。左顔面も神経まひを起こしている。これはただ事ではない。急いで病院へ連れて行くとすぐに頭のレントゲンを撮った。結果は脳内出血を発症していた。

娘はまだ10歳、詳しい検査が必要ということそのまま集中治療室へ。CT、MRI検査で異常な血管像が確認され、脳動静脈奇形と診断された。先天性疾患とのことだった。

昨日まで元気に友達と遊んでいたわが子が突然、左半身まひだなんて……。ドクターからの説明を受けた

後、頭の中が真っ白になり目の前が真っ暗になった。

どうしたらいいか、どうなるのか不安ばかりで、そのときの私は全身の震えが止まらなかった。そして娘のいる集中治療室へ向かう途中、涙が止まらなかった。

1人の看護師が私を支えながら付いて来てくれた。彼女は優しく「突然のことで大変だとは思いますが、お母さんががんばりましょう。一番つらいのは娘さんですからね。私たちにできることは何でもしますので遠慮なく何でもおっしゃってください」と言ってくれました。

私は彼女に抱きついて大泣きました。そんな私をしっかりと抱き締めてくれた彼女の温もりは、今でも忘れない。

毎日娘を見舞う私の様子を見て「お母さん、ご飯食べてますか？ お母さんが倒れたらダメですよ。今すぐ売店で何か買って来て食べなさい」と私を叱ってくれた彼女。食事なんて喉を通らない、あまり眠れない、そんな私を見透かしていたようだ。「大丈夫、この子はきつと強い子になりますよ」。そう言って毎日献身的に看てくれた。

その後、血管内治療と集中放射線治療の組み合わせによる治療で娘は完治した。今でも感謝の気持ちでいっぱいだ。